

ラオス訪問報告

(ラオス訪問日程:2014 年 2 月 19 日~25 日、報告者:藤田宏子)

アーシアンは、2009 年よりNPO法人日本国際ボランティアセンター (JVC)のサワナケート県「土地・森林保全と持続的農業による生活改善プロジェクト」に支援協力してきました。

2011 年度に第 1 フェーズが終了し、2012 年度からは第 2 フェーズです。

国がすすめる政策によりサワナケート県は産業特区になっています。農村地域では、伝統的には森林は村の共有のものとして使用されてきました。対象地のピン郡、アサポン郡では、南北を縦断する国道 13 号線と、ベトナムからタイを東西に結ぶ国道 9 号線が交差する位置にあるため、近年、森林の需要が高まり、外国資本の企業の進出が著しい地域です。経済成長をもたらす一方で、住民の同意なしに土地収用がおこなわれるなど、住民とのトラブルが発生し、林産物と農耕で成り立ってきた村人の食料確保が難しくなっている状況があります。

このプロジェクトの目的は、森林保全や自然資源管理による食料確保、持続可能な農業による生産性の向上、凶作等のリスクに備えた米銀行などの農村開発活動をおこない、村人が食料を確保出来るようにすることです。

長年の懸案であったラオスを今年 2 月に訪問しました。神奈川県のパオ法人「地球の木」のラオスチームで何度もラオス訪問の経験がある中野真理子さんと 2 人での訪問でした。

サワナケート県では、JVC 東京事務所から出張中の平野将人さん、11 月に赴任した現地調整員於勢泰子さんの案内で、現地ラオス人スタッフリーダーのフンパンさん、森林担当者、農業担当者、県と郡の行政官 2 名も 3 日間一緒でした。今回の訪問はプロジェクト対象地ピン郡の村の訪問でスタッフの活動に同行させてもらいました。訪問したどの村でも村人たちの合意を得るために、JVC スタッフたちのきめ細かな根気のいる活動の一端を見ることが出来た訪問でした。

今回の訪問ではいろいろな活動の内、次の活動の村(赤字)を見学しました。

活動の種類

- ① 参加型土地利用計画の準備と実施(GPS測定で、村ごとの境界線を確認し、森林を分類)
- ② 地域ドラマ・ワークショップ・・・ブルー族民族学校の生徒と協働で実施
- ③ 法律研修・・・法律カレンダーを作成し、村人が理解し、その権利を行使出来るようにする
- ④ 自然資源管理・・・乱獲による魚の減少を防ぐため、魚保護地区設置、植栽の日にイベント
- ⑤ 生態系農業技術研修・・・米の収穫量を上げる幼苗 1 本植技術の普及
- ⑥ 米銀行・・・委員会(委員には女性を含める)を設置し、運営を村人自身がおこなう
- ⑦ 家畜銀行(牛・ヤギ)
- ⑧ 井戸掘削・・・深井戸(浅井戸が出来ない場所)は業者に委託するため支援が必要
- ⑨ ラタン植栽・・・新芽は食用にし、成長すると民具、工芸品の資材として販売出来る

米銀行

スタート時の原資の米はJVCが支援し、田の面積が少ない家庭では 1~3 月で、米不足が始まる。不足する時期に外の業者から高い値段の米を購入する必要がなく、秋の収穫後に 10%上乗せして返却するシステム。

牛銀行

メス牛 2 頭を貸与し、子牛が生まれて 3 年間は育て、子牛を返却します。生まれたのがオス牛の場合は、牛銀行が売ってメス牛を買い、次の候補者に貸すシステムになっています。候補は、より貧困で、米不足が半年以上ある世帯が選ばれます。牛銀行委員会は、村長、獣医、女性同盟メンバーの 3 名で構成されています。

ヤギ銀行

ヤギは 9 ヶ月で子どもを産めるようになり、少ない資金で育てることができます。メス 3 頭、オス 1 頭を貸与、2 年後に返却するシステムです。現在は第 2 グループ 4 世帯で実施中です。

ラオス訪問日程

2014 年 2 月 19 日～25 日

19 日 成田→(ハノイ経由)ビエンチャン(ラオスの首都)泊

20 日 早朝ビエンチャン→サワナケート(空路 1 時間)

サワナケートのJVC事務所でスケジュール確認と事前説明を受ける

サワナケート→ピン郡へ車移動(2 時間) ピン郡のJVC事務所で昼食

ピン郡農林局事務所を表敬訪問

ファイサイ村「土地・森林保全利用計画」2 月に開校した高校の教室で村人たちへの説明会に同席

① **GPS測定で作られた地図を使い、村の森林の現況を確認してもらう** (参加者 30 人位)

乾期の女性の仕事

- ・ 米収穫後の 10～11 月以降は森に食べ物を採りに行く(竹の子、野草、ラタンの新芽など)
- ・ 家庭菜園での畑仕事(種芋の穴掘り、下草刈ったりの準備)
- ・ 時々ベトナム企業のゴム農園での仕事(肥料やり、雑草取りなど)

日によって要請の人数が違うので、あまりあてにはならない上、田植えよりきつい仕事で賃金が安い
(男女共) 30,000KIP/日(420 円位) 田植えの手伝いは 50,000KIP/日(600 円)

男性の仕事

- ・ 家に使う建材の切り出し
- ・ 出稼ぎ(ビエンチャン、サワナケート、タイなど)

フォレストボランティア・・・村長ともう一人

仕事の内容

- ・ 勝手に保護林の木を切ったりする人がいないかを見て回るのが仕事
- ・ 象が盗まれないように監視。この村で 8 頭が確認されているが、まだ出会ったことはないとのこと
(隣のバルー村には 10 頭)

21 日

・ **バロン村** 257 世帯(移動 1 時間半)

「井戸削掘」の確認と「米銀行新規設置」について村人と協議(70～80 人位)

村の集会所で昼食会(参加者は男性のみ)

・ **バルー村**(バロン村から延々と続くゴム植林の林の中を 40 分位移動)

「牛銀行」の説明と細則について協議、(現在参加の 4 人と次期参加の人が参加)

牛銀行参加者 4 世帯(第 1 グループ)にインタビュー

全員が牛銀行参加の目的は、「**田んぼ増やしたい、家の改築**」

22 日

・ **サイソンブン村** 米の収穫量を上げる **幼苗 1 本植**(SRI)実践者の田んぼ見学

・ **カンマイ村** 「**ヤギ銀行**」見学、**共有林散策(ラタン植栽・焼畑)**

・ **カヨン村** 「米銀行設置」についての村人との討議は親族の葬儀が行われるため延期に

23 日 パクセイ経由でビエンチャンに移動(3 時間)

24 日 モン族(シビライ村)の支援をしている安井清子さん宅を訪問し、刺繍小物商品の仕入れ

25 日 朝成田着で帰国